

成人 T 細胞白血病(ATL) に対する同種移植後の予後に 移植前モガムリズマブ投与が与える影響に関する研究

研究対象：

2016 年から 2019 年までの間に成人 T 細胞白血病リンパ腫 (ATL) に対して同種造血幹細胞移植を施行されている方

研究の概要：

本研究は、ATL に対する同種造血幹細胞移植の予後に対して移植前モガムリズマブ投与が与える影響に関して解析する研究になります。

研究の意義：

ATL は、通常化学療法のみでは極めて予後不良であり、近年、移植可能年齢の患者に対して同種移植が施行されている。しかし非寛解例への移植の予後は依然厳しい。本邦においては ATL に対して世界に先んじて 2012 年からモガムリズマブが保険適応となっているが、2013 年までの症例でモガムリズマブの移植前使用で重症移植片対宿主病 (GVHD) が増加したことが報告されているため、移植前の使用には注意が必要である。また、この報告時には最終のモガムリズマブ投与から移植までの期間が 50 日未満の例で有意に非再発死亡率が高く、その結果全生存率も劣るということから実臨床においては 50 日は間隔を空ける例が増えていると予想される。しかし、50 日以上経過した場合にもやはり依然として GVHD 増加のリスクがある可能性はあるが、前回の解析の段階では移植前モガムリズマブ使用症例数が限られており解析は困難であった。上述の通り現在は 50 日以上間隔を空けている症例が多いと予想され、50 日以上間隔を空けた例での解析をより詳細に行えるものと期待できる。このように移植前モガムリズマブ使用に関しての情報が新たに得られることで、実臨床における移植前のモガムリズマブ使用を検討する際の参考となることが期待できる。

方法：

移植学会のデータベースに含まれる情報に加えて二次調査を行った上で移植前のモガムリズマブ

投与に関連する情報を調査した上で、解析を行います。この研究のために新たに患者さんに追加で負担をお願いして行うものではありません。

個人情報保護に関する配慮：

個人情報が公表されることはいかなる形でもありません。後方視的に過去の診療録を調査する際には、個人情報が特定されないやり方で情報を収集します。また、このホームページにおいて本研究を実施することについて公開し、問い合わせ等に応じます。患者さんからのご希望があれば、その方のデータは研究に利用しないように配慮いたします。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

【当院への問い合わせ先】

独立行政法人国立病院機構 岡山医療センター 血液内科 臨床研究部長 角南一貴
〒701-1192 岡山市北区田益 1711-1
TEL：086-294-9911（代表）

【研究代表施設】

大阪国際がんセンター 血液内科 藤 重夫
〒541-8567 大阪府中央区大手前 3-1-69
TEL : 06-6945-1181